

令和元年度第1回草津市上下水道事業運営委員会 会議概要

■日 時：

令和元年11月27日（水）15時00分～17時00分

■場 所：

草津市役所4階行政委員会室

■出席委員：

山田委員長、田中副委員長、西谷委員、馬場委員、山口委員、西川委員、山本委員
関谷委員、永濱委員

■欠席委員：

なし

■事務局：

打田部長、奥山副部長、平尾副部長、福西課長、安土課長、島田課長、松永課長
太田課長、佐々野場長、西谷副場長、岩崎参事、中西参事、川元課長補佐
吉水課長補佐、廣田課長補佐、松尾係長、田中専門員、勇田主査、北川主査、松田主事

■傍聴者：

なし

1. 開会

事務局より挨拶。

2. 委員紹介、事務局職員紹介

委員改選後、初回の委員会のため、全委員の紹介。事務局職員紹介。

3. 委員長、副委員長の選出について

委員の互選により決定されるが、委員より事務局提案を求める声あり。

事務局が山田委員を委員長に推薦し、また、副委員長には田中委員を推薦し
一同了承。

委員長、副委員長より挨拶。

4. 会議の公開について

公開について、草津市情報公開条例第32条を説明。

法令等の規定で公開することができない、また、正当な理由がある場合を除き公開しな
ければならない。非公開とする理由がないことから、公開としたい。

一同了承。

5. 議事

(1) 平成30年度水道事業会計の決算概要について

●事務局

< 資料に基づき説明 【資料3】P2～9 >

●委員

内容理解のために、3点質問したいところがあります。

まず、2ページと3ページに人口と有収水量が増加しているという記載があります。この出てきた数値は、平成27年度に策定した水道ビジョン・水道事業経営計画の計画時に見込んだ予測と比較して、どの程度差異があったのでしょうか。

2つ目は5ページの維持管理費についてですが、草津市は供給している全ての水を市で作っているのでしょうか。もし県から受水している水があれば、その受水費用は維持管理費のなかに含まれると思いますので、詳細を教えてください。単価はいくらで何 m^3 受水しているのか、受水費用として市から県に対していくら支払っているのか、給水している水のうち何%が県からの受水にあたるのかを教えてください。

3つ目は9ページの流動資産について、20億円分は定期預金に預け入れしているという説明があったと思います。企業では、1年を超える長期的な資産は固定資産に分類することが多いと思いますが、定期預金を流動資産に区分している理由、つまり流動資産と固定資産の区分を分ける基準があれば教えてください。

●事務局

まず1つ目の回答としましては、草津市水道ビジョン・水道事業経営計画策定時は給水人口を13万1,853人、年間有収水量を15,184千 m^3 と見込んでいました。平成30年度の数値は、いずれも計画策定時の予測に比べて上回っています。

2つ目の回答としましては、滋賀県に受水費用として支払っている金額は、税込で1億2,924万4,866円となっており、受水量は148万8,652 m^3 になります。滋賀県から受水している水の単価は1 m^3 あたり税抜で80.39円であり、草津市の給水原価は1 m^3 あたり67.72円です。全体の給水量のうち、約9%を滋賀県からの受水で賅っている状況です。

3つ目の回答としましては、1年以内に動きがあるものは流動資産、1年以上動きがないものについては固定資産に分類しています。本市におきましては、市で定める公金管理の運用方針があり、現在定期預金は全て1年以内で預け入れを行っているため、流動資産に区分をしています。

●委員

2つ目の質問での回答で、草津市全体の給水量のうち9%は県からの受水という話がありましたが、草津市の浄水場の稼働率はどれくらいですか。例えば、もし県からの水が無かったとしても、市の浄水場の稼働率を100%まで上げることで、草津市の給水量全てを賅うことは可能でしょうか。

●事務局

ロクハ浄水場の稼働率は、現在耐震補強工事を行っている関係で約68%。北山田浄水場は、ロクハ浄水場に実質のところ給水応援を行っておりますので、稼働率は約90%となっております。耐震補強工事前のロクハ浄水場は、県から平均2,000tの水を購入して稼働率は90%程度、北山田浄水場の稼働率は当時75%程度でした。ロクハ浄水場の稼働率は90%に達しておりますが、施設の稼働率からみるともう少し稼働率を落としていく必要があります。よって、今後も引き続き、県からの受水はしていかなければならないと考えています。

●委員

現在地震に対する備えとして、耐震補強等の工事を進めていると思います。今年、他の市町において、台風等で浄水場が水浸しになり被害を受けるという事案が発生しました。北山田浄水場は、現在浸水危険区域にあると思いますが、それについて今後どのようにされるつもりでしょうか。

●事務局

北山田浄水場は、現在浸水想定区域内に位置しているため、何が最も良い対応策か今後検討していきたいと考えています。具体策としては、止水板や防水扉の設置、新たに築造する場合においては、もともとの地盤を高くすること等があります。浄水場としての機能を維持しながら止水対策を行うにあたって、最適な対応は何かということを経験検討する必要があります。

●委員長

上水道事業を考えるうえで、災害等のリスクをどこまで想定するかということは、非常に大事になってきます。例えば、緊急時に県からの水はどの程度供給可能なのかということ等も含め、次期水道ビジョン策定の際に、皆さんで判断していく必要があるのではないのでしょうか。

●委員長

7ページの決算概要で一般会計出資金がありますが、こちらはどのような費用を一般会計から繰入したのでしょうか。

●事務局

ロクハ浄水場の耐震補強工事に係る費用です。本工事に要する経費は、一般会計から繰入すべき経費に該当するため、一般会計から繰入を行っています。

●委員長

国からの交付金は入ってくるのでしょうか。

●事務局

交付金の対象になります。

●委員長

それは何%でしょうか。

●事務局

確認した後、後日回答させていただきます。

●委員

先ほど県水の話が出ましたので、何故市の協議において県水の話が出てきたかについて説明させていただきます。まず、県が直接一般の住民に対して、水を供給するということはありません。しかし、市単独で必要な給水量を賄いきれない場合は、県が浄水した琵琶湖の水を、各市町に対して供給しています。滋賀県では、8市2町に対して県水の供給を行っており、そのなかには草津市も含まれています。県は、琵琶湖からポンプで水を汲みあげ、各市町に給水を行っています。よって、広域的に給水を行う必要があるため、市で作っている水よりも県水の方が単価は高くなっています。

(2) 平成30年度下水道事業会計の決算概要について

●事務局

< 資料に基づき説明 【資料3】P10～17 >

●委員長

15ページに一般会計負担金等とありますが、こちらは基準内繰入金だけですか。

●事務局

基準内と、基準外の繰入金が一部含まれています。

●委員長

基準外繰入金に該当するものは、どういったものがありますか。

●事務局

基準内の繰入につきましては、総務省が公表している繰出基準に基づいて、一般会計から繰入を行っています。基準外の繰入につきましては、建設改良費の人件費見合い分等がありますが、平成29年度から、基準外で負担金として繰入していた一部については、一般会計からの借入金という形に変えています。将来的には返済を行い、出来る限り独立採算制に近い形をとれるように努めています。

●委員

13ページにある、減価償却費等18億2,100万円、純利益3億8,600万円、それらを合計すると22億円程の余裕資金があると思います。そこで、15ページの補てん分11億4,000万円を差引すると、10億5,000万円近い資金が余っていることになると思います。この資金は、17ページにある流動資産13億6,400万円に含まれている分かと思いますが、去年の流動資産はいくらだったのでしょうか。

●事務局

平成29年度末の下水道における流動資産は、9億6,523万9,978円です。

●委員

そうすると、去年に比べて4億円ほど増えているということかと思いますが。余っている

10億5,000万円から4億円を引いた、残りの6億5,000万円はどこへいったのでしょうか。

●事務局

13ページの支出にある減価償却費は、現金が動かない支出になります。一方で、収入にある長期前受金戻入も、過去に頂いた補助金等を年数で割っているものであり、現金が動かない収入となっております。よって、実際の利益というのは減価償却費から長期前受金を差し引いた金額となっております。

●委員

わかりました。その計算だと、差額は2億円程度になりますね。それぐらいであれば、減価償却費等のなかに含まれているのかなと思いますので、大丈夫です。

(3) 草津市水道ビジョンおよび水道事業経営計画の目標と実績について

●事務局

< 資料に基づき説明 【資料3】P18～23 >

●委員

以前、他市に比べて草津市の水は臭いと言われたことがあります。それは、どのような原因だと思われませんか。

●事務局

おそらく臭いについては、かび臭や、消毒の臭いが原因かと思います。ちなみに、それはいつ頃の時期でしたか。

●委員

10月頃だったように思います。

●事務局

ロクハ浄水場は活性炭ろ過により、ほぼ100%臭いは除去出来ていると考えます。北山田浄水場に関しても、緩速ろ過というバクテリアを利用した方法を採用しているため、水が臭いということはあまり経験がありません。

ただ、10月頃は水温が下がり、かび臭物質を持ったプランクトンが増殖するので臭いが発生しやすい時期にはなります。その時期は、頻繁に職員何名かで臭いの確認を行ったり、活性炭を使用したりするなど注意を払っています。

●委員

他市では場所によって井戸水を利用している地域等もあるので、水源の差があるかもしれないですね。

●委員長

平成28年度に琵琶湖のかび臭が問題になりましたが、草津市に影響はなかったのですか。また、20ページにある「カビ臭から見たおいしい水達成率」は年々揺れ動いていますが、これは琵琶湖の原水に大きく影響を受けるものなのでしょうか。

●事務局

ロクハ浄水場で活性炭ろ過池を一年中稼働し続けられれば、100%という目標を達成することは可能です。しかし、臭いが発生しにくい冬の時期に活性炭の再生業務を行い、4～5月頃から再生を終えた活性炭を再び使用するという方法を採用しているため、年間を通して活性炭を使用し続けることは非常に難しいです。

また、ここでいう数値とは年間の最大値によって算出されており、年間を通しての平均値ではありません。よって、一度でも臭いが発生すると、100%は達成できないような指標となっています。この算出方法は、水道事業ガイドラインにより定められているもので、全国的にこの算出方法を採用しているものです。

なお、北山田浄水場は微生物を利用した緩速ろ過方式を採用しており、平成28年にかび臭が問題になった際も臭いは発生しておりません。

(4) 草津市下水道事業第8期経営計画について

●事務局

< 資料に基づき説明 【資料3】P24～28 >

(5) 令和元年度主要な事業内容について

(6) 今後の予定について

●事務局

< 資料に基づき説明 【資料2】P29～34 >

●委員

水が溢れると、マンホールの蓋が飛ぶことがあるという話を以前聞きました。飛ばないように改良された蓋もあるそうですが、草津市ではどのようなになっているのですか。

●事務局

令和元年度で、合計4,610枚のマンホール蓋の交換が完了する予定です。このマンホール蓋は、下から水圧がかかっても外れないような仕組みとなっておりまして、防災面においても安全性に優れています。

●委員

マンホールカードは、今後も続けていくつもりでしょうか。

●事務局

下水道は水道に比べて関心度が低いですが、マンホールカードを通して下水道や草津市のPRにも繋がるため、今後も続けていく予定です。

●委員

水道管の老朽化という話を耳にしますが、草津市で一番古い水道管の場所等も把握されているのですか。

●事務局

水道管の整備時期については、台帳により管理を行っています。優先順位を付け、順次

交換しています。

●委員長

33ページに、雨水幹線整備について記載があるかと思えます。雨水事業は、下水道事業の決算には含まれていないのでしょうか。

●事務局

雨水事業は、下水道事業の決算に含まれています。下水道事業の決算は、公共下水道事業、雨水事業、農業集落排水事業の3つを含めた形で記載を行っております。

●委員長

雨水の扱いが難しいため、区分の仕方を今後工夫した方が良いのではないのでしょうか。

●事務局

今後の参考にさせていただきます。

●委員長

他に御意見、御質問はありますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、これで閉会とさせていただきますと思います。

6. 閉会

事務局より挨拶。